

共同利用施設としての分析センター

分析センター長 吉岡 道和

分析センターは 1980 年 4 月に設立され、1985 年 1 月には建屋が完成いたしましたので、本年は設立 20 周年、名実ともに分析センターとしての機能を開始してからは 15 周年にあたります。この間歴代のセンター長、分析センター専任教職員ならびに関係各位のご努力によって、機器管理や運営面などにわたるさまざまな問題点の改善がなされ、順調に発展してまいりました。

理学、工学系の研究・教育には多様な分析機器が不可欠であります。現代の科学技術の発展と分析機器の精密化ならびに分析技術の進歩を切り離して考えることはできません。また、最近の急速に発展する科学技術に対応するために高精度・高機能機器の新規導入が必要であることは言うまでもありません。分析センター発足以前は、学科単位あるいは研究室単位で分析機器を導入使用し必要に応じて相互に利用し合っておりましたが、建屋の完成時これらのうち汎用性の高い機器(核磁気共鳴装置、質量分析装置、微量領域 X 線回析装置)の分析センターへの移管をお願いしセンターで集中管理してまいりました。以来、新しい分析機器が順次導入され現在では 30 機種を越える機器が学内共同利用設備として関連分野の教職員および大学院学生の研究ならびに学部学生の教育に利用されております。

分析機器のなかには、その性格上広範な研究分野で必要とされる極めて汎用性の高い機器と、分野が限定されそれほど汎用性は高くないが必要不可欠の機器があります。前者に属する機器の場合には、利用者間で測定時間の調整が必要です。分析センターではこのような機器を最大限効率的に運用することはもとより、利用者の研究時間の無駄を最小にする方策として、各研究室のパソコンからアクセスできる予約システムを開発し利用者の便宜を計ってまいりました。本予約システムはその後改善を重ね機器運用および管理に役立てて参りました。

分析センターの管理運営形態は、1996 年に河西(当時)センター長の下に設置され分析センター機構検討委員会による i)運営に関する具体的方策、ii)将来計画の具体的施策の検討、iii)予算に関する事項、iv)機器の管理に関する具体的方策、v)その他センターの目的を達成するために必要な事項に関する委員会報告書に基づいて検討された結果、現在の学長―管理委員会―運営委員会―専門委員会となり、機器の保守管理は専門委員会に委ねられました。分析センターでは本年度設立 20 周年の節目にあたり、センター機構、機器の管理運営形態、予算、将来計画、センターの活動状況等を再度検討する必要があると考え、分析センター自己評価委員会を発足させ評価点検中であります。

分析センターには現在 30 機種を越える大・中型機器が設置され、その管理・運用は 2 名の専任教職員とボランティアとして協力していただいている教職員の尽力ならびに数名の学生アルバイトによって保たれております。また床面積も狭隘で新機器の設置場所に苦慮しております。

共同利用センターとして今後さらなる発展を遂げるため、センター利用者各位が協調し努力されまようようお願いいたします。

最後に、この CACS FORUM を 20 周年記念号として発刊するにあたり、多くの先生方ならびに大学院学生諸君に執筆をお願いし、快くお引きお受け下さったことに対して感謝いたします。